

聖書はこう言っています。

「この方(イエス・キリスト)に信頼する者は、だれも失望させられることがない。」

(ローマ人への手紙 10:11)

神様への敗北宣言

私がまだ子どもの頃の話ですが、父方の祖父が聖書の神様信じました。私は祖父が信じた時に傍にいましたが「わしの負けじゃ！ イエス様を信じる！」と言った祖父の姿が印象的で、今でも覚えています。私の両親が長年 聖書の神様のことを伝え続けて、とうとう根負けしたように聞こえますが、私には祖父の言葉が「神様への敗北宣言」であったように思われました。あとで父に聞いた話ですが、子供が病気にかかれば神社にお参りに行って熱心に祈っていた祖父だったそうです。祖父が歩んできた長い人生の中で、ずっと信じてきたものを捨てて、聖書の神様を信じるというのはとても勇気のいる事だったと思います。敗北宣言と言えば惨めで辛いことのように聞こえますが、信じた後の祖父は寧ろ活気に満ち、喜びにあふれて歩んでいました。足が悪く、腰も痛めて歩くのが容易でない祖父でしたが、「よいしょ！ よいしょ！」と掛け声を出しながら歩き、親族の前で「わしは100歳まで生きるぞ！」と息巻いていました。そんな祖父の姿を見て「自分もこのように年を取ることができれば幸いだな～」と思わされたことを思い出します。

さて、私たちの心には一つの王座があり、そこには「私」が座って自分の生き方を自由に決めています。聖書は、人が自分を王とし、自分のやりたいように歩むこのような生き方を「罪」と呼び、そして「罪」を持った人は死という裁きを受けなければならないと語っています。すべての人が罪人で、その罪によって滅びを免れないというのです。なんということでしょうか。もし、これだけで終わってしまうのであれば私たちは絶望するしかありません。

しかし聖書は同時に、イエス・キリストの十字架による贖いという希望を示しています。神の一人子であるイエス様が、私たちの罪の身代わりとなって十字架に架かって死んでくださいました。罪の無い方が、私たちの罪を背負って死んでくださったのです。しかも死んで終わりではなく、3日目に死を打ち破り復活してくださいました。私たちが抗えない死にさえも勝利してくださったのです。このイエス様を私の救い主と信じ、イエス様が私の罪を取り除くために十字架に架かってくださったことを信じることで、救いをいただくと聖書は語っています。救い主として信じるというのは

どういうことでしょうか。それは、心の中の王座に座る「私」が王座を降りて、イエス様に「あなたこそ真の王です」と王座を譲ることです。つまりイエス様の前に敗北宣言をするのです。死に勝利されたイエス様の前に敗北を認め、イエス様に従っていくことで私たちもイエス様にあって勝利者となります。神様への敗北宣言こそ、私たちがいのちを得る唯一の道なのです。それは決して苦しいものではなく、返って喜びに溢れた歩みとなります。この喜びを自分のものとして一緒に歩もうではありませんか。

